２０２５年度　公立大学法人北九州市立大学特別研究推進費　実績報告書

2026 年 4 月 30 日

北九州市立大学長　様

（所属・職名）基盤教育センター　教授
（氏名）　　坂本　毅啓

公立大学法人北九州市立大学特別研究推進費に係る研究実績について、次の通り報告します。

研究課題名	AI を活用した効果的な実習指導システムの開発と評価		
交付額	670,000 円		
共同研究者	所属・職名	氏名	役割分担等
	A　基盤教育センター 教授	佐藤　貴之	システム開発、 データ分析
	B　福山平成大学 教授	中原　大介	実習指導担当教員、 システム試行 データ収集、データ分析
	C　熊本学園大学 特任講師	工藤　歩	実習指導担当教員、 システム試行 データ収集、データ分析
	-	-	-

1．研究の目的

本研究の目的は、AI を活用することにより、ソーシャルワーク教育（社会福祉士養成課程）における実習指導の質を向上させるための実践的知見を得ることである。特に、近年進展している実習記録のオンライン化を背景として、実習生が作成する実習日誌等の記録を対象に、記述支援、評価補助、ならびに感情分析による精神的状態把握を行うことが可能な AI 活用の在り方について検討することを目的とした。

具体的には、実習記録作成における学習支援機能として、AI による文章評価や改善点の提示を活用することで、実習生の記述力および振り返りの質を高める可能性を検証するとともに、指導者側の実習指導負担の軽減に資する教育支援モデルの構築を目指した。また、実習期間中の精神的負担や不安の早期把握という課題に対応するため、感情分析を用いたメンタルヘルス支援の可能性についても探索的に検討した。

本研究を通じて、AI を実習指導の補助的ツールとして位置づけながら、人間中心の学びを維持したソーシャルワーク教育の高度化に資する知見を提示するとともに、今後の AI 活用型実習指導の実践および研究の発展に寄与することを目的とした。

2. 研究の方法

本研究では、ソーシャルワーク教育における実習記録を主な対象として、AI を用いた記述支援および感情分析の有効性を検討するため、以下の方法により研究を実施した。

まず、実習生が作成した実習日誌および考察文を分析対象とし、生成系 AI を用いて文章構成や内容に関する評価、改善点の提示、要約等を行う分析枠組みを構築した。また、同一の記録データに対して感情分析を実施し、記述内容に含まれる感情傾向の特徴を指標化することで、精神的状態把握の可能性について検討した。

次に、少数の実習記録データを用いた探索的分析を行い、AI による記述支援が実習生の記録内容や振り返りに与える影響について検証した。あわせて、AI による分析結果の妥当性や課題について整理し、実習指導における活用可能性および留意点を明らかにした。

これらの分析結果については、2025 年度中に学会発表を行い、研究知見の共有および意見交換を行った。その後、助成期間中に得られたデータおよび分析結果を基盤として、研究内容の精査と理論的整理を進め、学術論文として段階的に公表した。また、研究成果を応用する形で、実習記録や質的データを安全に扱うことが可能なローカル環境型計量テキスト分析手法の検討およびシステム開発にも取り組んだ。

以上のように、本研究は、実習記録に基づく探索的・実証的研究を中心に、教育実践への応用および成果の学術的発信を組み合わせた方法により実施した。

3. 研究成果

本研究では、AI を活用したソーシャルワーク教育における実習指導の質向上を目的として、実習記録（実習日誌）を中心とした記述支援および感情分析手法の検討を行った。2025 年度特別研究推進費の助成期間中に、実習日誌データを用いた AI による文章評価、改善点提示、感情分析の枠組みを構築し、その有効性について探索的検証を実施した。

これらの研究成果は、2025 年 12 月に開催された日本社会福祉学会九州地域ブロック研究大会において、「ソーシャルワーク実習日誌考察文への AI 活用に関する探索的研究」として学会発表を行い、実習生の記述支援および精神的状態の把握における AI 活用の可能性を示した。その後、助成期間中に得られた分析結果を基盤として、研究内容の精査および理論的整理を行い、学術論文としての成果公表を段階的に進めた。

具体的には、2025 年度中にソーシャルワーク教育における AI 活用の理論的整理および教育的意義に関する論文を発表するとともに、2026 年 2 月および 3 月には、実習日誌への AI 活用による記述支援効果や感情分析による精神状態把握の可能性について、試行的・実証的に検討した研究成果を学術論文として公表した。これらの論文は、いずれも 2025 年度助成期間中に実施したデータ収集および分析結果を基盤とするものであり、本助成による研究成果の延長・発展として位置づけられる。

さらに、2026 年 5 月には、本研究で得られた知見を応用し、完全ローカル環境で動作する計量テキスト分析アプリケーションの開発と活用可能性について学術論文として公表した。本成果は、実習記録

や質的データを安全に取り扱うという本研究の基本的課題意識を発展させたものであり、教育・研究現場における AI 活用の実践的基盤を提示する成果である。なお、本アプリケーションについては、GitHub 及び Researchmap の坂本のページで公開した。

以上のように、本研究では、AI を活用した実習指導支援に関する理論的検討から、実証的検証、さらには応用的展開に至るまで、計画的かつ段階的に研究成果を創出することができた。これらの成果は、ソーシャルワーク教育における実習指導の高度化に資するとともに、今後の AI 活用型教育実践の発展に寄与するものと考えられる。

業績リスト

Ⅰ．学術論文

1. 坂本毅啓（2025）「ソーシャルワーク教育における AI 活用の検討」『地域ケアリング』27（6），62-65.
2. 坂本毅啓（2025）「ソーシャルワーク教育における ICT・AI 活用の可能性と今後の課題―学習者参加型・人間中心型の設計の重要性―」『精神保健福祉』56（4），317-321．公益社団法人日本精神保健福祉士協会.
3. 坂本毅啓・佐藤貴之（2026）「ソーシャルワーク実習日誌への AI 活用に関する試行的研究―記述支援と精神状態把握の可能性の検討―」『地域ケアリング』28（2），46-49.
4. 坂本毅啓・佐藤貴之・中原大介（2026）「ソーシャルワーク実習日誌における AI 活用による記述支援と精神状態把握」『北九州市立大学基盤教育センター紀要』46，25-49.
5. 坂本毅啓（2026）「社会福祉領域における完全ローカル型計量テキスト分析アプリの開発と活用可能性―学生・実践者の質的研究を支援する試み―」『地域ケアリング』28（5），68-72.

Ⅱ．学会発表・研究報告

6. 坂本毅啓（2025）「ソーシャルワーク実習日誌考察文への AI 活用に関する探索的研究―記述支援と精神的状態の早期把握の可能性―」日本社会福祉学会九州地域ブロック第 66 回研究大会報告要旨集，47-49.（2025 年 12 月 6-7 日，別府大学）

Ⅲ．アプリケーション

7. 坂本毅啓（2026）「計量テキスト分析ツール（text-mining-app）」（GitHub repository: https://github.com/takechan-hundred-say/text-mining-app.git、閲覧日：2026 年 4 月 28 日）。

以上